第 Ⅰ 部

実社会との接点を重視した
課題解決型学習プログラムに係る
実　践　研　究

（課題解決に向けた主体的・協働的な学びの推進事業）

Ⅰ　実践研究の計画

１．持続可能な社会の形成に参画する態度等の育成に関する教育の現状・課題

(1) 本校の生徒の現状と課題

本校は，県内唯一の国立大学附属中学校であり，学部と連携した教育研究の実践，教育実習を中心とした教員養成，モデル校としての県内中学校教育への寄与等の使命を担っている。

本校の教育目標は，次の３点である。

○新しい時代を切り拓き，社会に貢献しようとする生徒の育成
○豊かな感性を育み，創造的に探究し続ける生徒の育成
○人とのかかわりを大切にし，共に伸びていく生徒の育成

これらの教育目標は，ともに一貫教育を推進している附属幼稚園・附属小学校（附属幼稚園，附属小学校，附属中学校をまとめて，以下「附属学校園」とする）の目指す子ども像とも共通している。また，附属学校園では，「21 世紀を生き抜くための資質・能力を備えた子どもの育成」を研究主題として，11 年間を通した子どもの育成を目指している。

本校の教育目標にある社会貢献や人とのかかわりといった観点から本校の現状に目を向けると，次のような課題が見えてくる。

①自ら集団にかかわりをもち，共に向上していこうという意識が弱い。

②生徒の出身地域が多様であり，地域資源に対する共通理解が図りにくい。

③時間的な制約で，地域での活動が難しい。

①については，学力調査等の結果から本校生徒の実態として，知性に優れ，多様な見方や考え方ができる生徒が多いことを把握している。また，校外でのクラブ活動や各種習い事に通っている生徒が多く，島根県が主催する「しまね数リンピック」・「科学の甲子園」や各種コンテストなどの参加状況を見ても，一人一人が学力や個性などを伸ばそうとする意識が高いことも伺える。

一方で，学校生活の様子からは，仲の良い友だち以外にかかわっていこうとしなかったり，良いアイディアをもっていても進んで言わなかったりするなど，自ら集団にかかわりをもち，共に向上していこうという意識が低い。また，思春期の一般的な傾向として，自己肯定感や自己有用感の低さが話題となるが，本校においては，これらに加え，学習への意識の高さが重圧となり，学習面の不振に対してストレスを感じたり将来に不安を感じたりしている生徒もいる。

②については，本校の在籍生徒の居住範囲は非常に広範囲（東は鳥取県米子市，西は出雲市，南は雲南市に及ぶ）に渡っており，公共交通機関を利用しての遠距離通学者も少なくない。当然のことながら，限定された校区から進学してくる地域の公立中学校と比べると，地域背景も多様であり，地域への帰属意識も弱い。そのため，本校周辺の地域に関わることや，本校が立地している松江市のことなどについて，知らない生徒もおり，地域資源についての共通理解が図りにくい。

③については，本校でも社会貢献や人とのかかわりにつながる学習機会はこれまでも設定してきている。また，もちろん社会科において，地域に関わる学習は実践してきているが，教科の学習の本来の目標や時数の制約等を考えると，教科単独の取組には自ずと限界があると言わざるを得ない。

(2) 島根県の現状と課題

島根県教育委員会が策定している「第２期しまね教育ビジョン21」の基本理念として「島根を愛し　世界を志す　心豊かな人づくり」が掲げられている。また，島根県の子どもたちの現状を見ると，全国的な傾向と同じく学力の低下や学習意欲の低下，規範意識の気薄化，生活習慣の乱れ，いじめや不登校，特別な支援が必要な子どもの増加，体力の低下などさまざまな問題を抱えていると述べられている。

島根県は，素晴らしい自然景観や豊かな歴史文化があり，生活しやすい県であると言われている。しかし，人口減少や少子高齢化，産業や雇用など，たくさんの地域課題があり，「日本の地域課題の最先端」の県と捉えることができる。また，若者たちは進学先や就職先を求め，県外へ出てしまう現状がある。そこで，将来「島根県に住みたい」「島根のために貢献したい」という思いをもち，上述したようなすぐには解決することができない課題について，地域だけでなく世界にも目を向けつつ主体的・協働的に解決しようとする人材を育成していく必要がある。本校は，先進的にその一端を担いたいと考えている。

２．本実践研究の趣旨・目標

「総合的な学習の時間」の目標は学習指導要領に次のように述べられている。

> 横断的・総合的な活動の時間や探求的な学習を通して，自ら課題を見付け，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに，学び方やものの考え方を身に付け，問題の解決や探求活動に主体的，創造的，協同的に取り組む態度を育て，自己の生き方を考えることができるようにする。

この総合的な学習の時間の目標及び，１で述べた現状や課題を解決するために，本校では，地域社会を「学校のある松江とその周辺も含んだ広い範囲」として捉える。そして，総合的な学習の時間において，地域が抱える課題を生徒が主体的に捉えて，人との繋がりを大切にしてより良くかかわり合いながら解決していくような活動を展開し，より良い社会を形成しようとする資質・能力を備えた生徒の育成を目指すこととした。

(1) 総合的な学習の時間での「豊かな学びの姿」

２で述べた目標を達成するために，次のような豊かな学びの姿を設定する。

> ○自分の実感・納得を大切にしていく中で，自分なりの疑問や課題をもち，その解決に向けて考えたり行動したりする姿。（こだわり）
> ○他者の立場や視点を大切にして，目的に向かって他者と共に取り組み，ひと・もの・ことと積極的に関わる姿。（かかわり合い）
> ○取組を振り返る中で，自分のよさや可能性に気付き，自分の生き方について考えようとする姿。（ふりかえり）

学習指導要領では，総合的な学習の時間に育てようとする資質・能力の視点として，「学習方法に関すること」「自分自身に関すること」「他者や社会とのかかわりに関

すること」などを示している。この視点を踏まえ，本校では，「こだわり」「かかわり合い」「ふりかえり」をキーワードに，目標を達成しようと取り組んでいる。

総合的な学習の時間を通して，生徒たちはさまざまなひと・もの・こととの出会いを経験する。出会った対象への興味・関心が「こだわり」として学習課題に大きく反映される。そしてそれらと「かかわり合う」中で，対象や関係が広がる。また，それらの関連性を見いだしながら生徒たちの学習は深まり，自分自身が社会の一員であることに気付いていく。こうして深まった学びを生徒たち自身が振り返る過程で，自分や他者のよさに気付き，学習を通して得たものをどういかしていくかを含めた今後の生き方を考える機会とする。

豊かな学びの姿を踏まえ，本校では，総合的な学習の時間において生徒たちに**表１**のような力を身に付けることをねらって各学年の発達段階に応じた学習活動を構成する。

表１ ３つのキーワードと総合的な学習の時間を通して生徒に身に付けさせたい力の分類

こだわり	○見通しをもって考えたり行動したりする力 ○自分のしたいことを見付けて追求していく力
かかわり合い	○自他の願いや考えを調整し，追求していく力 ○多様なひと・もの・こととよりよく関わる力
ふりかえり	○見いだしたことを役立てようとする力 ○自他のよさや可能性に気付く力

(2) 本実践研究の目的

表１で示した力は，単独で育つものではなく，それぞれが密接に絡み合って育っていくものである。各学年の発達段階に応じた力を明確にし，年間を通して身に付けさせていくことが必要だと考える。こうした明確なねらいを生徒に示し，生徒が活動の中で個々の追求を重ねていく。生徒一人一人が自分自身の興味・関心に基づいて課題に対して問い続け，学び続け，自分を振り返るサイクルがより実りあるものとなる。そして，個々の資質・能力が高まっていくと考える。

そこで本実践では，

社会との接点をもつ中で，「こだわり」「かかわり合い」「ふりかえり」を大切にした探究的な学習を通して，主体的に生きていく力を育む学習

についてのプログラムを開発することを目的とする。

３．本実践研究の計画

(1) 2015 年度

① 地域とのつながりを見直す

各学年において，必要な時数や計画について，もう一度見直す。併せて，体験活動を行っている事業所について見直し，長期的に連携できる事業所を探す。そのときに，市や県，大学と連携を図る。

② 総合的な学習の時間において必要と考えられる資質・能力を挙げ，各教科等

でどのように育むことができるか関連付ける

各教科等において付けたい資質・能力，どの教科においても必要とされる汎用的な資質・能力，実際に活動するときに必要とされる資質・能力などを明確にし，関連付ける。その際に，どの段階でどのような資質・能力を付けていくか考え，学年で大切にしたい資質・能力を挙げる。

また，社会で一般的に必要とされる礼儀やマナーについても，生徒たちに自らを省みる機会をつくる。

③　②の検証を，実践を通して行う

②で挙げられた資質・能力が身に付いたかどうかを，事前事後のアンケートの比較・分析やイメージマップ，活動後のふりかえり，自己評価などで検証する。また，形成的評価を行い，修正・改善を図る。

④　他校の実践を視察する

先行実施している学校を視察し，本校の計画等を見直す機会とする。

(2) 2016 年度

①　2015 年度の結果を踏まえて，修正をして再度実施する

前年度，実施したことに関して見直し，修正を図る。

②　生徒が自ら課題を見付け，それを解決するプロセスを意識して実行できるようにする

問題を解決していく過程を，生徒が意識できるように計画・実施する。例えば，各教科等で，その方法を何種類か提示し，実行する。

③　生徒が「発信する力」について着目し，体験したことを「発信」するだけでなく，各事業所などに「提案」できるようにする

３年生の学習において，体験したことを発表することに止まっていたが，体験したことを踏まえて考えたことなどを各事業所に「提案」していく。

④　研究成果を公開する

これらの研究の成果物として，次のことを挙げていきたい。

・実社会との接点，各教科等横断的な学習などの視点を含んだ総合的な学習の時間年間指導計画の作成及び授業公開
・年間指導計画に基づいた実践事例
・指導と評価の一体化を図ることを目指した評価規準の作成

４．本実践研究の内容

(1) 実践研究の対象

全校生徒を対象として実施する。第１学年，第２学年での学びを生かして活動する第３学年を中心とする。

(2) 総合的な学習の時間のテーマ

本研究の目的を達成するためには，生徒が課題への視点を自分のものだけでなく，地域を見つめるなど，複数の視点をもてるようにする必要がある。そこで，総合的な

学習の時間のテーマを次のように設定する。

住みたいまちプロジェクト～ふるさとの明日を創ろう～

このように「住みたいまち」という視点を入れることで，自分（たち）だけが住みたいまちをつくるのではなく，様々な人が住みたくなるための視点をもって学習に取り組む必要性が出てくる。

また，「プロジェクト」とすることで，自分だけでなく友だちと協働的に解決する活動となることをねらう。

そして，副題を「ふるさとの明日を創ろう」としたことで，地域社会・地域課題に目を向けることができるようになると考えている。

課題などのマイナス面だけを見てその解決策を考えるのではなく，今のまちを自分がどう感じているのかを振り返り，魅力をより伸ばす，また課題解決の方策を考えることとする。「住みよいまち」ではなく，「自分が住みたい」「住み続けたい」と思えるまちの姿をイメージし，そのための方策を考える取組としたい。

このような取組を通して，「こだわり」「かかわり合い」「ふりかえり」の力を育んでいく。

このテーマに沿って具体的には，３つの総合的な学習の時間を設定する。

(3) ３つの総合的な学習の時間

① Bridge

Bridge は，体験活動とそれに関わる準備やふりかえりを行う総合的な学習の時間である。総合的な学習の時間の中核を担い，各学年でテーマや目的，活動内容が異なる。

○１年 Bridge Ⅰ「社会を知る」高齢者福祉施設での追求型の体験活動

○２年 Bridge Ⅱ「社会に関わる」職場体験活動での選択型の体験活動

○３年 Bridge Ⅲ「他と共に社会に参画する」地域社会での社会参画を軸にした発信型の体験活動

Bridge では，「こだわり」「かかわり合い」「ふりかえり」の３つに関わる力が育まれると考えている。活動を計画したり，自分の追求したいことについて考えたりするので「こだわり」に関する力が育まれる。協働的に活動の準備をしたり，中学生以外と関わったりするので「かかわり合い」に関する力が育まれる。協働的に活動する中で発見したことや体験活動を通して見いだしたり，体験活動等において，自分だけでは考えつかないような見方や考え方に触れたりして，その後の生活や学習に役立てることで「ふりかえり」に関する力が育まれると考えている。

② Information 総合

Information 総合は，インターネットや図書館の利用など，情報活用能力の基礎的・基本的な内容についての学習や，プレゼンテーションの方法，発表資料のまとめ方などについての学習を行う。Information 総合で学んだことを用いて Bridge での各活動にいかしたり，活動のまとめを行ったりする。つまり，Information 総合を通して，「こだわる」ための手段や方法を身に付けることができると考えている。

③ Communication 総合

Communication 総合は，人間関係づくりを行う総合的な学習の時間である。１年では，附属学校園合同集会による人間関係づくりを行う。附属学校園合同集会は，異校種間の活動を行い，同年代ではない人とのかかわり合う場を設けている。２年は，１年の活動に加えて，修学旅行準備，調査活動を通しての人間関係づくり，そして，３年では，修学旅行での実践活動，調査活動，終了後のまとめを用いて，２年生に対して学習を通しての人間関係づくりを行う。

このような活動を通して，Communication 総合では，異なる年齢，異なる世代の他とも「かかわり合う」ための経験を積み重ねることができると考えている。

これら３つの総合的な学習の時間での学びを，各教科での学習や，行事等で学んだことと関連付けていく。そして，総合的な学習の時間を通して，地域社会との接点をもつ中で，「こだわり」「かかわり合い」「ふりかえり」を大切にし，主体的に生きていく力を育む実践を行っていくこととする。

(4) 本校の総合的な学習の時間の６つのカテゴリー

３年 BridgeⅢ「他と共に社会に参画する」において，生徒は「自分の強み」を生かして社会参画活動を行ってきた。地域社会がどんなことを求めているのか，地域の課題はどんなところにあるのか，それを解決するために「自分の強み」を生かしてどんな活動ができるのかなど,活動内容を決定するまでが生徒も教員も毎年難題であった。また，近年の本校の３年生の活動は，活動がメインになり，その活動は地域が求めているニーズだったのか，その活動自体は地域のために意味あるものだったのかなどの反省があがっていた。

まずは，地域社会がどんなことを求めているのか，地域の課題はどんなところにあるのかについて，社会参画委員会（詳細は７．本実践研究の実施体制を参照）で話し合いを行った。話し合いでは，中学生の視点から考える地域社会の課題は大人に無い視点であり興味深く，それを解決するための活動も毎年いろいろな内容があり，おもしろいという意見を出た。ただ，単年度という短い期間の中での活動となり時間的制約が大きいことが問題視された。生徒の活動が単年度で終わることなく，次年度も継続させ，バージョンアップした活動を地域が求めていることがわかった。それを解決するために，生徒と担当教員がその年度の活動の記録を残すこととした。実際に活動した生徒，それをサポートした担当教員の２つの視点から，目的，活動内容，関わった事業所・団体，成果や課題などが分かるような一覧表を作成する。その年度の活動を先輩から後輩へ，担当教員から次の担当教員へと引き継ぎ，継続的な活動が行えるシステム作りを行っていくこととした。

次に，継続した活動を行うために３年間を貫くテーマを検討し「住みたいまちプロジェクト～ふるさとの明日を創ろう～」に決定した。そして，活動内容の課題を解決するために，活動内容の分析を行うことにした。本校の３年間の総合的な学習の時間のテーマに迫るために，過去４年間の活動内容の整理，分析を行った。以下の**表２**は，４年間の活動内容の代表的なものである。教員で KJ 法を使って，内容を整理・分類を行った。年度ごとにカテゴリーにばらつきはあるものの，似た内容が多いことが分かる。そこで，活動を６つのカテゴリーに分類した。６つのカテゴリーは，「環境」「生

活」「観光」「教育」「福祉」「ものづくり」である。これを本校の総合的な学習の時間のカテゴリーと設定した。３年生の活動だけでなく，２年生で行う職場体験活動もこのカテゴリーに基いての分類を行うこととした。そうすることで，２年生の段階からこのカテゴリーを意識して取組むことができ，３年生の活動へつながると考える。カテゴリーごとに職場体験先を分析することで，その事業所が「住みたいまち」にするためにどんなことを地域のために行っているのか，どんな課題があるのかを感じ，３年生での活動への意識付けを行うことをねらっている。また，３年生の発表をその視点からみることができると考える。

表２　４年間の活動内容

平成２７年度	平成２６年度	平成２５年度	平成２４年度
○環境 ・松江にある温泉のでき方を地域に発信する（パンフレットの配布） ・廃油キャンドルの配布（城北公民館の文化祭） ・清掃活動を行う（水郷祭後の清掃活動） ・嫁ヶ島周辺の清掃活動 **○健康** ・ＡＥＤに関するアンケート ・動物の殺処分の実態を知り，啓発するポスターを作成する **○食** ・アンケートをとり，そこから読みとれる地域の方の食に対する意識をまとめ発信する（意識調査から発信） ・地域の食について動画を作成し視覚的にわかりやすく発信する（メディアでの発信） ・地域の特色を生かしたお菓子を考案し，レシピを発信する（調理を通して発信） **○観光** ・松江城や城山公園の清掃活動を行う ・観光客向けに，観光情報等を取り入れたポスターを作製し，松江城内に掲示する ・観光アンケートを実施し，その結果をまとめ，松江城内に掲示することで発信する ・観光マップを作成し，松江城周辺に訪れた観光客に配布する **○小学校英語** ・特別支援の児童と交流しよう（フェアトレードについて学習する・料理をする・英語を学ぶ） ・児童クラブで英語・算数を教える ・日本文化（神話）を伝える **○音楽文化** ・音楽でたくさんの人を元気にする（演奏）	**○環境** ・環境フェスティバルで宍道湖の生き物について発表 ・湖沼環境モニター ・島大広報にてしじみの浄化作用と環境保護について啓発活動 ・燈縁ボランティアへの参加 ・環境フェスティバルでエネルギーのあり方について発表 ・宍道湖畔のゴミ拾い **○行政** ・バス乗り換え早見表の採用を提案 ・しまねっこ弟キャラの採用を提案 ・一畑電鉄デニハ 50 形 100 周年記念展の企画の採用を提案 ・島根のものを使って新商品企画の採用を提案 ・若者の定住化をめざす企画の採用を提案 ・「喫茶店」を出店する企画を提案 ・子供用のベンチデザインの採用を提案 ・島根ドック（食育・地産地消）の企画の採用を提案 ・縁結びクッキー（おみやげ）の企画の採用を提 ・しじみ貝殻の利用 **○健康** ・ポスターや体操ビデオを作成して体力低下に歯止めを! ・昼食づくり～おいしく食べて健康に!!～ ・AED マップをつくって伝えよう（AED 大会出場&全校の前で披露） ・ポスターで健康啓発を!! **○国際交流** ・日本の食文化を外国の方に伝えよう，味わってもらおう ・ふるさと松江をピーアール ・小泉八雲の会談を外国の方に伝えよう） ・島根のパンフレットを作り，外国の方に伝えよう	**○環境** ・公園の美化活動（ゴミ拾い・草むしり・遊具清掃・トイレ清掃など） ・ゴミ拾いをし，拾ったゴミの種類を分析・集計して公開する啓発ポスターを作成して掲示する ・宍道湖のしじみの現状や宍道湖の水質について調べ，しじみの生息環境を保全することを呼びかけるポスターを掲示する（シジミ館・イオン） ・宍道湖において増加している「外来種」について調べ，宍道湖在来の生物を守ることを呼びかけるポスターを掲示する ・「宍道湖七珍」の生物数の変化を調べ，宍道湖七珍を保全することを呼びかけるポスターを掲示する ・宍道湖の水質（プランクトン数・油の影響）について調べ，宍道湖のゴミ拾いを行い，家庭排水について呼びかけるポスターを掲示する ・宍道湖のアオコの増加の原因を調べ，家庭排水による汚染防止を呼びかけるポスターを掲示する ・ゴミ拾いと草取りをし，ゴミについては種類等の分類・分析を行って，情報発信のための壁新聞を作り，学校内に掲示をする ・ゴミ拾いをし，拾ったゴミの種類を分析してデータ化（グラフ）にして公開する ・ゴミ拾いと像や階段のコケ落とし ・施設内外の清掃活動（窓ふき，掃き掃除草抜き） **○地域振興** ・松江駅・しんじ湖温泉駅に島根県ＰＲポスターを掲示する ・学園地区の清掃 ・ベンチを作ってバス停に設	**○環境** ・宍道湖に触れた実感から，宍道湖の環境についてアプローチできる人材になるために湖岸の生物採集と環境，宍道湖西岸の環境観察 ・透視度，塩分濃度測定 ・生物の採集 ・採集した生物の分類，同定，記録 ・その他解説（汽水環境・ラムサール条約） ・宍道湖西岸の環境監査（植生・人工構造物等） ・湖岸の漂着物採集 ・採集した漂着物の分類 ・漂着物が生物に及ぼす影響について調査する ・湖岸清掃船について学ぶ ・草取り，ゴミ拾い，トイレ掃除，遊具の点検 ・側溝のゴミ拾い，壁磨き（トンネル） ・ゴミ拾い，分析，拾ってきたゴミをもとにまとめ作業 ・アオコの採取，肥料づくり，アオコ肥料作り ・宍道湖清掃，宍道湖環境保全のためのチラシ作成・配布 ・公園，遊具の清掃活動，掃除の様子を新聞にまとめ，公民館に貼りに行く ・北公園の清掃，ゴミの分別，本の栞づくり，押し花栞作成，寄贈 ・運動公園の清掃，チラシの作成 **○地域振興** ・松江城，松江駅周辺のビラを配布，ポスターを作って地下道に貼る ・児童公園，公園のトイレと公園内の清掃 ・附属中，島根県庁，松江城でインタビュー，ビラ作成 **○観光** ・清掃作業 ・観光地取材 ・ＣＭ作成作業

・松江の良さを子どもたちに歌とダンスで伝える ・島根の神話を日本語，英語でいろいろな人に伝える **○福祉** ・子どもの苦手な食材でおやつをつくり，そのレシピを配布する（園児のためのお菓子レシピ開発） ・保護された犬や猫たちのためにできることを発信する（動物・ペット問題） ・保育園の子どもたちにおもちゃを贈る（子どもの世話・ものづくり） ・保育園の子どもたに読み聞かせや歌を披露する（子どもとスポーツ・ダンス・読み聞かせ） **○エネルギー** ・自転車の安全利用 ・ポスターづくりでハイブリッドカーの利用促進 ・資源の有効活用（自転車の修理） ・廊下で風力発電	**○教育** ・ダンスで保育園児に体を動かすことの楽しさを伝える ・演奏で保育園児に音楽の楽しさを伝える ・手遊びや歌で小学生に英語の楽しさを伝える ・紙芝居や工作で保育園児にエコの大切さ，必要性を伝える **○福祉** ・高齢者福祉施設へ訪問する ・養護学校の児童にの授業し交流する ・動物の殺処分の実態を知り，啓発するポスターを作成する ・盲導犬の様子を知り，啓発するポスターを作成する **○ものづくり** ・キャンドルでエコ生活 ・ラッピングドアを制作する ・松江の素敵なお店をおみくじで伝える（ご縁で解決，運命の店） ・松江の素晴らしさ（松江城・宍道湖・和菓子）を伝える	置する ・プラバと県立美術館の近くの地下道に啓発ポスターを取り付ける **○観光** ・松江城を全国に広める ・英語でパンフレットをつくる **○福祉** ・合唱，ちぎり絵，スキンシップ ・読み聞かせ，歌（幼稚園） ・（紙）人形劇，作品づくり ・ちぎり絵，歌，体操，お話	・観光客へのアンケート調査 ・ポスター作り ・松江歴史館にて取材，松江歴史館 PR ﾑｰﾋﾞｰ作成 ・『だんだん傘』ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄへの協力 ・松江をｱﾋﾟｰﾙする中学生目線の和菓子の提案 **○福祉** ・デイサービスセンター，病院への飾り付け ・クラスや校内に切手を持ってきてもらえるように呼びかけを行う

5．活動の連携を予定している団体

以下の地域団体と連携を図る。

○NPO 法人松江ツーリズム研究会

○認定 NPO 法人自然再生センター

○松江市役所

○松江市内公民館

○島根大学　　など

6．学習プログラムの成果を示す手立て

本実践を通して，次のような成果が得られると想定している。

・身に付けたい力を明確にし，学んだことを活用しながら課題解決を行うことができる。

・自ら課題を設定し，情報収集，整理，分析する活動を通して課題を検討することで，より適切な課題を設定し，主体的に解決していくことができる。

・自分の考えをもち，友だちや教職員，地域社会の方と協働して解決に取り組むことにより，社会性や人間関係形成能力，新たな価値を創造する力を身に付けることができる。

学習や活動を通して，自己有用感をもつことができると考えられるので，事前・事後の質問調査により明らかにする。

7．本実践研究の実施体制

本校において，各学年に配置される教員数は７人程度であり，この人数で約 140 人

の生徒を担当している。各学年による一年間の指導体制では，生徒一人一人を継続的に受けもち，主体的に生きていく力を身に付けさせるには難しい状況である。したがって，各学年の学習計画の作成や効果的で横断的な学習の指導をするために，本校では「社会参画推進委員会」（**図１**）を設置した。本校の第３学年の社会参画の対象は幅が広く，生徒の活動と校外の専門家や各種法人，行政機関等とを結びつける中核を本推進委員会が担えないかと考えた。昨年度に引き続き，本年度の社会参画推進委員会委員の所属する団体，諸機関は次の五つである。

○NPO 法人松江ツーリズム研究会
○認定 NPO 法人自然再生センター
○松江市産業観光部
○島根県教育センター
○島根大学

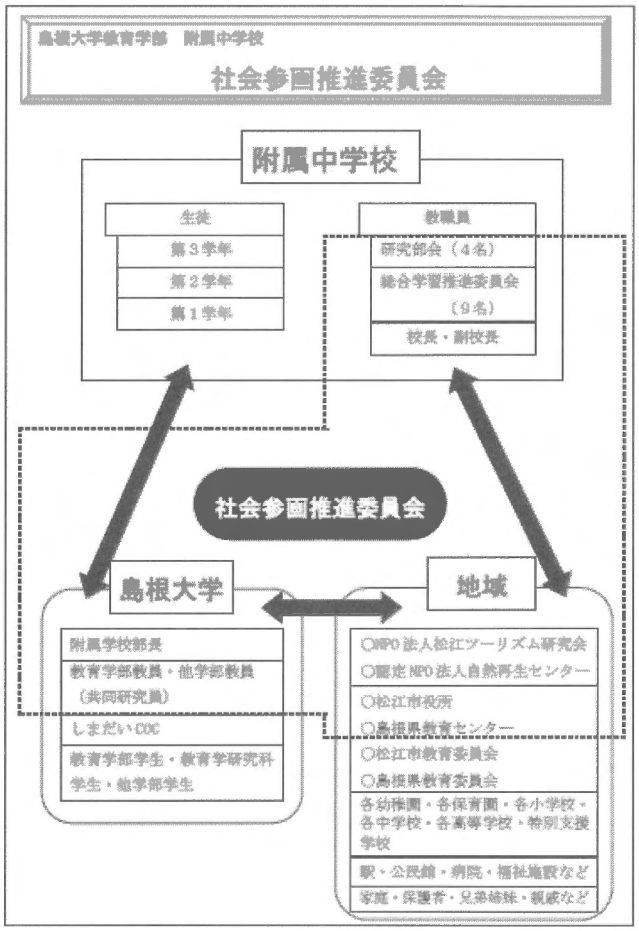

図１：社会参画推進委員会